

いきいき  
まえばし人



「みどりの愛護」で国土交通大臣表彰  
岡田 穆さん・75歳  
石倉町一丁目

緑化活動から町を元気に

緑化推進活動の功績をたたえ贈られる、第20回「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰を、石倉町緑地愛護会が受賞。その会長を務める。「名誉ある賞をいただけて光栄です。愛護会のメンバーもとても喜んでいて、受賞記念の懇親会を開く予定なんですよ」

会員は約20人で、利根川沿いの石倉緑地を中心に活動している。緑地の定期清掃や町内全域の清掃のほか、約40本のサクラの保存やアジサイの植栽を行い、自然と親しめる場所になるよう心掛けています。活動の後にはみんなでグラウンドゴルフも楽しむ。

「人との交流も大切にしています。ことしは社会福祉協議会主催のふれあいサロンで、たくさんのお年寄り

がお花見に訪れました。将来は町のシンボル「サクラ・アジサイ通り」として、みんなに楽しんでもらえる場所にしたいですね」

愛護会の会長のほか、石倉町中部自治会長、元総社地区自治会連合会長も兼ねている。この活動を通して町を活性化させていくことが目標だ。

「若い人の参加が少ないので、これからは誰でも気軽に参加できるように環境をつくっていきます」

趣味は公園へ出掛け、バードウォッチングをすること。普段から自然へ目を向けることが多い。

「鳥や草花、赤城山をバックにした利根川の風景などを見ると心が落ち着きます」

これからも活動の先頭に立ち、緑あふれる町を守り続けてほしい。

いにしえ  
万華鏡  
その一

永久のほほ笑みをたたえる

国重要文化財 鉄造阿弥陀如来坐像

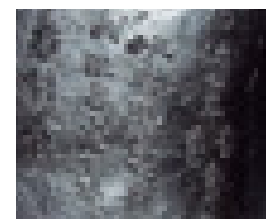
県道前橋西久保線、端気町の交差点を700mほど北上した所に、勝道上人開基の由来を持つ長場山善勝寺があります。この寺のご本尊が鉄造阿弥陀如来坐像。昭和3年8月17日に国の重要文化財として指定されました。「鉄造」とは

材料に鉄を使った仏像「鉄仏」のこと。仏像の多くは加工が容易な木や銅などで造られますが、このご本尊は極めて加工の難しい鉄が用いられているのが特徴です。

この仏像の背面には、仁治4(1243)年2月に心禅という僧の勧進により造られたと記されています。希少な鉄仏ですが、そのうちの多くが東国に残る物。この中



鉄造阿弥陀如来坐像



仏像背面の銘文

で、造られた年代が記されている物は、すべて鎌倉時代以降。その制作年代や武骨な印象から、東国の武士好みと言われています。しかし、善勝寺の阿弥陀如来像は、頭部は銅、胴部は鉄で造られていることから、洗練された繊細な印象を受けます。

日本の鉄の生産は奈良時代以降飛躍的に増大しました。一方、銅は銭貨の材料に用いられるなど希少性が増したため、鉄仏が造られるようになったのかもしれない。あるいは銅や木に比べ火に強く硬い鉄に不変性や永遠性を求めて造られたのでしょうか。

四季移ろう中、善勝寺の阿弥陀如来像は今日も永久のほほ笑みをたたえています。

※ご本尊は1月1日の一般公開日に拝観できます

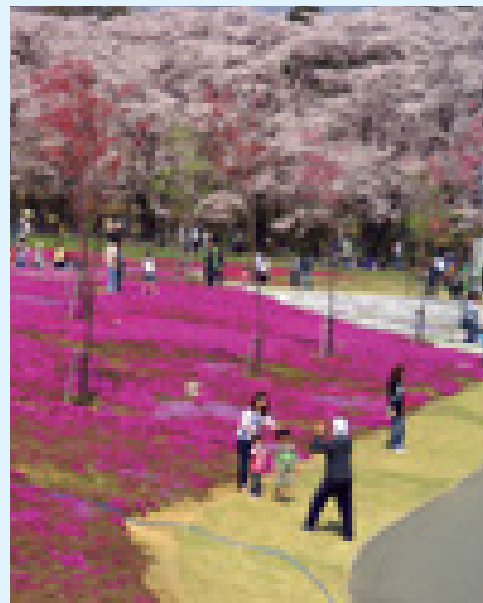
問い合わせは 文化財保護課 ☎2361-9531

グー・ズ・ア・ツ・プ



満開のサクラが出迎え

4月4日から19日まで、赤城南面千本桜まつりが盛大に開催されました。八木節やだんべえ踊りなどの芸能発表が行われた12日には、サクラとシバザクラが満開に。暖かな日差しの中、たくさんの親子連れなどが訪れ、体いっぱい春を感じていました。



風車の下で多彩な催し

大胡ぐりーんふらわー牧場で4月12日、さくらまつりが行われました。サクラと風車の下、イベントに多くの団体が出演し、太鼓の演奏などを披露。食べ物や雑貨などの模擬店も出店され、訪れた人たちは楽しい一日を過ごしました。



赤城山の情報を発信

4月10日、赤城山総合観光案内所でオープニングセレモニーが開催されました。赤城山にちなんだ資料や「赤城山ゆかりの文人たち」の展示コーナーも。テープカット後、参加者へ新鮮な牛乳などが振る舞われました。